（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	メゾふぉるて／中野ポルカ			
○保護者評価実施期間	令和8年9月上旬	～	令和8年10月上旬	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	3名	（回答者数）	3名
○従業者評価実施期間	令和8年10月下旬	～	令和8年10月下旬	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	2名	（回答者数）	2名
○訪問先施設評価実施期間	令和8年9月上旬	～	令和8年10月上旬	
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	3校	（回答数）	3校
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年10月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○ASD／ADHDなどの神経発達症に特化している訪問支援員が在籍している。	▽日々新たな情報や考え方を随時吸収する為に、学会のHPや専門機関の情報をチェックしたり、関心をもっているドクターの書籍などを買い漁り、勉強している。 ▽自分の考えや見解が必ずしも正しいとは考えずに、訪問先の意見や取組みにも視野を広げて受け止め、楽しみながらも一緒に支援を考えられる様に対応している…つもり。	★神経発達症と言われる他の症状にも対応していける様に、視野や見聞を広げたい。特にSLDはまだちゃんと理解しきれていないので深めていきたい。またDCD（発達性協調運動症）についても同様。
2	○訪問先の抱えている課題や困り感に目を向け、寄り添いつつも、随時適切な答えや考えるヒントを提供するように心掛けていることで、結果的に子どもたちの問題を解決に導いている。	▽アセスメントから得た基本軸や自分なりの見立ては内面に置きつつも、実際に子どもさんとやり取りしている先生方や保護者の想い、対応の難しさを理解し、どの引き出しなら効果が得られるか負担が減らせるかを事前に準備して臨む様にはしている。	★自分なりの見立てや引き出しの数は随時増やしていける様に随時努力していくが、保護者や先生方の置かれている状態や想いに傾聴することと、共感することは意識して展開していきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○支援の方向性や実際の関わり方やサポート方法など訪問先の意向や顔色を気にし過ぎて、中途半端な訪問支援となり、本来の目的が果たせないことが時々起きてしまっている。	▽過去の訪問支援の中での失敗や反省から、躊躇してしまったり、避けようとしてしまったりしてしまうことがひとつの要因かも知れない。	★訪問先の担当の方々との聞き取りの時間を増やし、どの様に進めて欲しいか、具体的な要望などの確認をお互いに納得するまで執り行うべきだとは思っている。
2	○訪問支援自体の提供の仕方について、訪問先の事情に合わせた工夫や調整が出来ていないことで、訪問支援の頻度や依頼そのものに良くない影響を与えてしまっている。	▽これまでの経緯や一般的に「保育所等訪問支援」とはこういうものといった固定観念が、担当する訪問支援員の根底にあり、訪問先の事情にちゃんと気付けていなかったと思う。	★上記の内容とも被るが、支援の詳細だけに限らず、訪問先に合った、もしくは訪問先の求める提供スタイルを支援開始前に相談し、対応していく様に心掛けていく。
3			